

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・少人数指導による個に応じた指導や基礎・基本の定着に重点を置いた指導、興味・関心を引き出すような教材の工夫などにより、学習が「よくわかる」と回答する児童が多い。また、昨年度まで課題となっていた、以前良好であった関心・意欲・態度の数値が年々下がってきている実態についても、今年度は改善が見られた。
- ・補習や少人数指導で基礎内容に繰り返し取り組んだ結果、基礎については良好である。課題であった数量や図形についても改善が見られる。
- ・下表2(1)からも読み取れるように、算数の定着について、全体的に学年が上がるにしたがって着実に達成率が上がっており、指導の効果が表れている。計画的に既習事項の復習プリントを宿題とし、家庭で反復学習ができるように留意したことも定着に繋がっており、学習時期を過ぎると定着率が下がる本校全体の課題の改善につながった。

(2) 課題

- ・問題文を読み解き、数学的な考え方を用いて、自力解決することにまだ課題が残る。
- ・授業で算数の意味指導に力を注いでも、児童にとっては手続き的な処理として定着し、その後の活用に繋がらなかったり、時間が経つと忘れてしまったりする実態がある。
- ・特に量と測定・数量関係の内容には課題が多い。その中でも、倍や割合の考え方については、どの学年においても理解と活用に困難が見られるため、指導方法の工夫が課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率の変化(経年比較)

	平成28年度結果	平成27年度結果	平成26年度結果
第4学年	達成率±0		
第5学年	達成率+9.2	達成率±0(第4学年時)	
第6学年	達成率+7.6	達成率+13.9(第5学年時)	達成率±0(第4学年時)

(2) 分析(観点別) 4・5・6学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>昨年度までは、区・学習効果測定で期待正答率は超えているものの区平均を下回るようになってきていることが課題であったが、今年度は5・6年共に期待正答率だけでなく区平均も超えることができ、改善が見られた。4年が若干区平均を下回ったが、これは身近なものの長さや重さを適切な単位を用いて推察する問題の正答率が低かったためである。昨年度に引き続き、学んだ知識を問題解決に生かす能力が課題となっている。実生活に生かせる適切な量感をもてるように指導を工夫するなど、既習の知識を基に自力解決する機会を増やし、学習に対する姿勢を改善していく。</p>	<p>期待正答率を上回り、概ね良好となり、若干上回る程度だった昨年度より上昇が見られた。昨年度までの課題であった図形の性質とその作図や、二次元表の読み取りについては改善が見られた。</p> <p>「百分率とグラフ」の割合に関わる問題については継続的に課題である。問題場面を整理し、公式に当てはめて演算決定をすることについては授業改善の成果が見られているので、引き続き文章問題を読み解くスキルを身に付けさせていく。一方で、割合の問題場面を図や式で表し伝え合う活動を通して、割合の意味をしっかりとらえられるよう指導していく。</p>	<p>期待正答率を上回り、良好である。一方、数と計算領域のわり算では期待正答率を下回ることがあり、学習時期だけでなく日常的に様々な内容を反復練習する必要性が感じられた。特に÷10などの数のしくみに関わる問題に課題が見られたので、数のしくみをしっかりと理解できるようにしていく。小数の除法の計算の意味や計算の仕方を理解し、正しく計算できるようにする。また、今回出題はなかったが、計算のきまり、特に分配法則を使う問題に課題があるので、図などを用いて定着を促していく。</p> <p>いずれも単元の学習時期だけでなく、学習後も反復練習をし、より定着を図る。</p>	<p>期待正答率を上回り、良好である。本校で基礎的・基本的内容の定着に重点を置いて指導してきた効果が見られる。一方で、依然として整数、分数、小数の構成や意味の理解に課題があり、分数、小数のしくみを問う問題や分数を大きい順に並べる問題などの正答率が期待正答率より低い。分数と小数の互換については様々な場面で取り上げ、意味理解と定着を図る。</p> <p>また、時刻と時間、長さ・重さ、広さの量感など、量と測定に関してどの学年においても定着が低かった。適切な量感につながる目安をもたせるとともに、単元の学習時期にかかわらずに反復練習する機会を設け定着を図っていく。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
一人一人の興味や意欲を引き出すような教材の工夫をする。具体物を用いた活動や体験的な活動を多く取り入れ感性を高める。自力解決をする場を意識的に設定する。 <u>ペアで考えを伝え合う活動を取り入れ、全員が思考できる場を作る。</u> <u>少人数指導と必要に応じたTTにより児童の実態に応じた指導を行う。</u>	具体物を使ったり、体験したりしたことを基に、他の場合はどうなるかを具体的に調べていく活動を多く取り入れる。問題をよく読み、問われている内容を理解するように考えさせるために、問題文に線を引いたり印をつけさせたり、図を活用する体験をさせたりして、 <u>今後の問題解決への素地づくりをする。</u>	加法、減法、乗法九九などの基本的な計算が確実に身に付くように、授業中や家庭学習で繰り返し練習し、習熟させる。放課後補習や夏休み中などの補習でも基本的な計算が身に付くように繰り返し練習し、習熟させる。特に <u>基礎の足し算・引き算は暗記して素早く答えられることを目標とする。</u>	身の回りにある具体物から形を見付けたり、折ったり切ったりする活動を通して図形の理解を深める。加法、減法、乗法が用いられる様々な場合を、 <u>ブロックなどの操作活動を通して、演算の意味の理解を深め、演算決定の経験を多くさせる。</u> <u>長さの具体的で適切な目安をもたせ、測定する経験を通して量感を養う。</u>

(2) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<u>少人数指導とTTにより児童の実態に応じた指導を行い、確実に「できる」実感を味わえる場を確保する。</u> 一人一人の児童の発言を多く引き出せるよう身近な事象など教材を工夫し、興味をもって学習に取り組めるよう操作活動を取り入れる。既習内容を生かして理由を説明しながら自力解決する場を意識的に設定する。 <u>ペアやグループで考えを伝え合う活動を取り入れ、全員が思考する経験をできるようにする。</u> また、発展的内容なども取り入れることで、算数への関心を高め、児童の意欲を喚起させる。	基本的な図形を観察したり、構成したりする活動を通して、構成要素に着目して図形を理解し、それを元に考察や作図をする活動を行う。 演算決定では、図や公式を基に、順序よく考えたり、数直線や言葉の式を用いたりして正しく演算決定ができるようにする。 <u>線分図の定型を用意し、かきやすいよう配慮する。</u> また、 <u>ペア学習などにより演算決定の根拠を図などを用いて自分の言葉で説明する場面を多くもつようにする。</u> 特に、 <u>倍の学習においては何が基準量となるかを読み取れるように指導する。</u>	具体的な様々な場面で四則の混合した計算や(括弧)を用いた計算の式に表し、計算のきまりを明確にして、正しく計算できるようにする。 <u>操作的な指導に偏らず、意味指導に重点を置いて数感覚が育つように留意する。</u> 特に <u>÷10などは数のしくみに立ち返り、意味的な理解を促す。</u> 授業・家庭学習・放課後補習・土曜日補習で繰り返し練習し、間違いを繰り返さないようノート指導などで確実に直させ習熟を図り、基本的な内容が身に付くようにする。学習後も既習内容を繰り返し復習して定着を図る。	十進位取り記数法の仕組みを段階的にしっかりと理解させるようにし、小数の仕組みを理解しやすい素地を作る。分数については、具体的な操作を伴う算数的活動を通して、視覚的・体感的に理解できるようにする。具体的な操作を伴う算数的活動を通して面積の求め方を学ぶことで、 <u>長方形の面積の公式を理解できるようにする。</u> <u>長さ・重さ・広さの具体的で適切な目安をもたせ、測定する経験を通して量感を養う。</u> 単元の学習時期にかかわらず反復練習する時間を設けたり、復習用の掲示をしたりする。

(3) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<u>少人数指導と必要に応じたTTにより、児童の実態に応じた指導を行う。</u> <u>児童が関心をもつような教材を工夫し、操作活動を取り入れたたり、問題解決学習を取り入れたたりする。</u> 既習内容を生かして理由を説明しながら自力解決をする場を意識的に設定し、 <u>ペアやグループで考えを伝え合う活動を取り入れ、全員が思考する環境を作る。</u> また、発展的内容なども取り入れることで、算数への関心を高め、児童の意欲を喚起させる。	既習内容を生かして問題を解決する場を設定すると共に、既習事項の有用性を実感しながら自力解決できる場を意識的に作り、算数の学習に対する姿勢の改善を図る。 演算決定では、具体的な場面で図や表、言葉の式を用いて筋道を立てて考えられるようにする。図は定型を用意してかく練習を積む。演算決定の根拠を図や表を用いて自分の言葉で説明する機会を、 <u>ペア学習などを通して多くもつように計画的に指導する。</u>	<u>計算指導においても、操作的な指導に偏らず、意味指導に重点を置いて数感覚が育つように留意する。</u> <u>小数の計算は、小数点の位置に着目し、計算のきまりを活用して整数の計算に置き換えて計算できるように気付かせ、理解させる。</u> 割合では、一あたりの量がどれにあたるかに着目させる。繰り返し練習に取り組み、ノート指導等で確実に直させ習熟させる。放課後補習や土曜日補習でも基本的な内容が身に付くように繰り返し練習し、習熟させる。	図形の学習では、操作を通して公式や図形用語の理解と定着を図る。小数や分数の意味を理解できるよう教材や指導法を工夫する。数量関係の学習において、線分図だけでなく、二次元表もあわせて活用できるようにする。 量と測定に関する内容については、 <u>それぞれの単位の具体的で適切な目安をもたせ、適切な量感をもてるようにし、適切に活用できるようにする。</u> 単元の学習時期にかかわらず反復練習する時間を設け、定着を図る。

